

資料3

どうしようこ 銅鉦鼓

<概要>

法 量 鼓面径 26.3cm 口径 27.6cm 厚 5.9cm 側縁厚 3.4cm
耳幅 5.8cm 耳厚 0.7cm 撞座径 8.5cm 口縁厚 1.0cm
時 代 鎌倉時代（元徳二年、1330年）

本品は、^{ががく}雅楽用の鉦鼓である。銅・^{かどぼ}鑄造で、肩が角張り、^{こうもり}甲盛¹は高いが直線気味に高まっている。内側から2条²、子持三条、2条の隆帯をめぐらし、側面にも細い隆帯を1条めぐらしている。内面には^{ばち}撥の^{だこん}打痕がよく残っている。また、側面に以下の銘を刻んでいる。

奉施入 正鼓一 遠江國 濱名大福寺常住物

元徳二年 ^庚午^壬六月八日 沙門良範

撞座の蓮華文が蓮弁を描かずに蓮肉の外側に長大な^{しべ}蕊をめぐらし大粒の^{ずいとう}蕊頭を連ねるのも南北朝期に顕著になる特色である。

本品は、三河・尾張・遠江地域における最古の雅楽用鉦鼓として工芸史的な価値が高い。

1 甲盛：表面が滑らかに盛り上がる曲面に仕上げられた状態。

2 条：すじ。すじ状のもの。

どうしょうこ
銅鉦鼓



表面



裏面

(愛知県教育委員会提供)